

編集後記

2021年の夏は長い雨が続き、一部では水害にも見舞われて苦勞をされた地域の先生方もおられると思います。毎年、災害があるたびに復興という言葉をよく耳にするようになりました。さらに現在は並行して世界的災害といえるCOVID-19の流行では、それぞれの国がそれぞれのやり方で復興の道を模索しています。誰にとっても初めて迎える未知の疾病に対する対応を強いられる中で、我々も苦戦を強いられております。どのやり方が正解かわかりませんが、批判の応酬は避け、知を集約し最善の方向性を見出すことでより早期に安心できる生活を確保することが今の政治、医療における最優先課題です。

そんな中にも拘わらず臨床神経学にも多くの投稿をいただいております。貴重な総説、研究論文や診断、治療に難渋した興味深い症例報告も多数見られます。臨床医がたまたま出会った症例を皆と共有することで、その確かさが増し、磨きがかかった知識と経験の共有になります。先達の言葉「書かれた医学は過去の医学であり、目前に悩む患者

の中に明日の医学の教科書の中身がある」は身に染みて現在の診療の中でも必要な言葉です。臨床を行う上で問題の種はつきることはありません。従来の報告とは異なる発見、これからの診療に有用な知見があれば、どんなことでもしっかり検討して報告をすることが大事で、この繰り返しで日本の神経学の発展を支えてきました。一番恥ずべきことは問題の軽視でありスルーです。脳神経内科医は世の中がコロナ禍を克服しようとする努力と同じように、お互いに批判ではなく、共に方向性を探り、世界に通用するような研究あるいはそれを担う若手の育成をはかることを課題としたいものです。これを臨床神経学の役割と考え、日々締め切りに追われつつ査読を行っております。多くの先生方の積極的な投稿と、査読依頼の際は建設的なご意見をよろしく願いたします。

2021年9月1日

(坪井 義夫)

〈編集委員〉

編集委員長	小野寺 理	編集副委員長	三澤 園子		
編集幹事	石浦 浩之	漆谷 真	杉江 和馬		
編集委員	今井 富裕	木下 真幸子	古賀 政利	櫻井 圭太	柴田 護
下畑 享良	鈴木 匡子	辻野 彰	坪井 義夫	中嶋 秀人	新野 正明

「臨床神経学」	第61巻 第10号	2021年10月1日発行	
編集者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発行者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		戸田 達史
印刷所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>